



ほけんだより 7月号



令和3年6月28日

そらまい守谷保育園

暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや、急激に気温が上がった日は特に注意が必要です。普段からの外遊びで体を鍛え、喉がかわいていなくても、水分をこまめに摂取するようにしましょう。

夏に多い感染症

ウイルス感染によって起こる病気です。他人への感染力も強いので、必ず受診をして医師の診断をうけましょう。

ヘルパンギーナ

突然の高熱と喉の痛み、口の中の水ほう、口内炎が特徴です。症状が軽ければ1～4日くらいで解熱します。



手足口病

手の平、足の裏、口の中に水ぼうがができ、発熱することもあります。食事は喉ごしのよい物を食べましょう。



プール熱(咽頭結膜炎)

プールで感染することもあり、高熱が3～5日くらい続き、喉の痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎のような症状も出ます。食事は消化のよい物を食べましょう。

流行性角結膜炎

目が腫れ、充血し、普段より多く目やにや涙がでます。周りの人への感染源となるのでタオルは共有しないようにしましょう。



これらの感染症は、かかりつけの医師の診断に従い、登園届の提出をお願いします。

気になる子どもの虫刺され

子どもが蚊に刺されると、大人より反応が遅く1～2日

後に症状が出ることもあります。時間が経つにつれ、赤く腫れたり水ぼうがができたりし、腫れる場合も大人よりも大きく腫れあがります。これは、虫刺されの経験が少ないために起こる激しい炎症反応です。刺されてしまったら、患部を洗って冷やして、薬を塗り、かきむしらないようにしましょう。薬を塗っても良くならない時は、病院で診てもらいましょう。また、手足の指先はなめてしまう危険性もあるため、薬はつけないようにしてください。

お知らせ

例年、秋から冬にかけて流行するRSウイルスが、春先から流行しています。現在、園での感染者は出ていませんが、特に0歳、1歳が家庭内にいる方で、咳が出るという場合には、マスクの着用と、手洗いに心がけ、重症化しやすい乳児へ感染させないように予防していきましょう。